

「志」をもつ

今年から一万円札の新紙幣の肖像になった渋沢栄一について、どんなことを知っていますか。明治から昭和初期にかけて活躍した実業家で、日本初めての銀行である第一国立銀行をはじめ、生涯およそ 500 社もの会社の起業にかかわり、約 600 もの教育・福祉など社会的事業に携わったといえます。

「私利を追わず公益を図る」との信念を生涯にわたって貫き通し、周りの人が巨万の富を築いて次々と財閥になっていく中で財閥にもならず、長年、平和を訴え続けてきた功績から、2 年連続でノーベル平和賞の候補にもなりました。「日本資本主義の父」と言われ、幕末から大正時代初期にかけて日本の発展に力を尽くした人物です。

渋沢栄一は「立志」という言葉を大切にしていました。こうなりたいという目標を掲げて、それに向けて努力するということです。彼の行った講演を一冊にまとめた「論語と算盤（そろばん）」という本の中で、印象に残った言葉があります。「できるかできないかよりも、やりたいことを貫く」という言葉です。私たちは、逆境に直面すると「できるか、できないか」という軸で考えがちです。一方、彼が言うのは「やりたいか、やりたくないか」という軸で考え、「やりたい」ことなのに「できない」と思っていることが問題だと言っています。

塾生の皆さんも、将来自分はこうなりたいという目標を立て、日々努力することで自分の成長につなげてほしいと願っています。すぐに結果が出なくてもいい、何年かかってもいい。自分以外の人あまりそのことを知らないかもしれない。しかし、「志」を持って地道にあきらめずに強い意志を持ち行動することで、今まで自分が気づかなかった新たな長所や能力を発見することに繋がっていくでしょう。

もう一つ、渋沢栄一の代表的な名言「夢七訓」があります。幸福を得たければまず夢を持つことだ、という内容を表しています。「①夢がない人間は理想がない。②理想がない人間は信念がない。③信念がない人間は計画がない。④計画がない人間は実行しない。⑤実行しない人間は成果が出ない。⑥成果が出ない人間は幸福になれない。⑦だから、幸福になりたいなら、夢を持つべきです」という意味です。子供から大人まで、夢をもち、前に進んでいくために励みとなる名言です。

また、「『か』ではなく、『と』の精神を持て」とも述べています。『か』というのは、英語で言うと「or」です。右か左か、上か下かの一方だけではなく、右と左、上と下といったように、異なる物事を『と』で結び付けることで、化学反応が起こり、新しい創造物が生まれるという考えです。塾生の皆さんにはこの『と』を大事にして、耕人塾の活動のコンセプト（基本的な考え方）である「主体・楽しさ・創造」の「・」を『と』で結び付けて「主体と楽しさと創造」を様々な場面で化学変化を起こし大きく成長して行ってほしいと願っています。

「初心不可忘（しよしんわするべからず）」

（世阿弥「花鏡」及び「風姿花伝」第七「別紙口伝」より）

「初々しいころの気持ちを思い出して慢心せず実行していく（初志貫徹）」ではないのです。世阿弥が言いたかったことは「いくつ年を重ねていってもその段階では拙さや未熟さがあるから、いつまでも忘れず自分を磨き続けよう」ということなのです。